

July 22, 2009 : 開田高原

19号線にもどって少し走ると361号線への分岐点にでる。左折して橋を渡り、地蔵トンネルを抜けると周囲に白樺の美林が続く快適な走りとなる。8月後半だとコスモスがきれいに咲く道でもある。高原アイスクリームの看板が見える手前を左に入って木曾馬の里へと向かう。左手にブルーベリーの実る広い敷地がある道をたどると乗馬センター専用の駐車場だ。きれいな白樺林をバックに緑の草原が展開し、複数の馬たちがゆっくりと草を食んでいる。乗馬コース脇で小さなブルーのシジミチョウが飛ぶので近づくと、ヒメシジミの♂が小岩の上でしぶいブルーを輝かせて羽を広げている。前翅右端が少し欠けた個体だがそれなりにきれいな開翅状態をビデオ記録し、ひらりと飛んだあとも、すぐ近くに咲く黄色い花へと移動して求蜜しはじめるので、じっくりとビデオ撮影をする。次いで翅裏にオレンジ色がめだつことですぐに♂ではないとわかる♀が同じ花にやってくる。

新鮮度はひくい個体だが、翅表を開いてみせてくれると褐色の地色に濃いオレンジ紋が映えてきれいだ。柵の中は白樺林が奥につらなる広い草原で、柵にそ



って馬の散歩道だろうか、歩ける部分があるので奥へとたどってみる。左側に谷様に切れ込む斜面があるところに、ヒメジョオンの群落があり、かなり下方の位置にコヒョウモンが2頭蜜を求めて飛来している。道から斜面へと少しだけ踏み込めばネットがなんとか届くのでこのチョウたちを捕獲したそのとき、カラスシジミの仲間がすぐその横のヒメジョオンにとまる。なんとかネットが届き、コヒョウモンが入ったままのネットで捕獲する。先ほど畑のそばでみた個体よりははるかに新鮮で、翅表はカラスという命名どおり黒褐色だけでお世辞にもきれいとはいえないが、裏面の独特の白い筋模様からミヤマカラスシジミだと同定。尾状突起根元の赤い紋が褐色の地色に映えるきれいなシジミチョウである。



July 22, 2009  
開田高原 ミヤマカラスシジミ

近縁のカラスシジミは裏面の白条纹が英文字のWの形となっていることで、本種と区別でき、北海道の丸瀬布武利川林道で2000年7月13日にヒョドリバナで吸蜜中の個体の撮影記録がとれている。

